

# 友林蘇岐

## 目次

### 論説

民族の興亡と其原理

西野入徳

### 研究

油桐又はドクエ

今井武雄

小川事業區に於ける

伐木運材事業概況

長谷川毅

### 文苑

日曜日に

今野啓藏

臺灣より

T. 生

和歌旅にて草枕生

六月集 Y 生

### 報告

學校彙報 職員異動

會員動靜 記念會醴金

林友代、謝恩金、吊慰金

領收報告

## 論説

### 民族の興亡と其原理

在ワシントン大學 西野入 徳

#### (一) 緒論

此地球上に初めて人類の出現したるは何時なるか明瞭ならず地質學者人類學者の説によれば數十万年の昔である唯確なる説録の存するは紀元前約三千年エヂプト王國の建設を以て初めとする。倍此エヂプト建國以來五千年の間幾多の國は興り幾多の氏は亡び變遷を経過して今日となつた是等總ての國々各民族の興亡盛衰を一々辿るは到底短時間の許す所ではない故に余は斯る歴史の敘述を省き直ちに緒論に到着し如何なる條件の下に民族は興り如何なる事情の下に國は亡ぶるかを簡單に述べたい。

#### (二) 本論

##### 第一條件 地理

民族の勃興に先づ必要なるは良好なる地理的條件である。

1 温帯は最も民族の發達に適する

ジン、ピア、バーリーの説によれば北緯三十三度にある土地が人類の發達に最も適當すといふ。勿論人文の發達は人工と以て或程度迄天然を支配するが故に寒帯の一部熱帯の或部分にも文明人は活動しつ、あるとはいへ生理學上地理學上民族の勃興

に最も適するは温帯なる事は歴史の證明する處、エスキモー、アイヌの北地に榮えず南洋土人の隆昌ならざる所以である。

2 文明國に接近するは他の條件である。

ギリシヤの興りしはエヂプトと東洋との中間に位し兩方より文明を吸收せるによる南洋サモア群島南アフリカ、ナタル、カプアラシヤの如き土地氣候は中分なきも亦國民と稱するに足るものなきは文明國と接近してをらぬ故である。

3 經濟的條件は其次に位する然して天産豐富は即ち之である。

ナイル河邊にエヂプト興りタイグリスユーフレチス河の邊にメソポタミヤ王國の建設せられし理由である

##### 第二條件 人種

如何に地理上の有利條件を備ふるも或人種は發達の能力を欠く支那人朝鮮人印度人馬來人の如きは個人としては相當に發達すると雖も民族としての組織的活動には不得手である。發達すべき民族は政治的思想に富み團體活動に妙を得てをらねばならぬ此点に於て白人は最も秀づる。

##### 第三條件 時期

民族の勃興にも個人同様時期がある。第一に發育修養、第二に成熟、第三活動と順を経ねばならぬ文明の華も樹の花の如くに時を有する英人の優秀を以てしても若しローマ時代なりせば到底世界六分の一を有し威を八紘に振事出来なかつたであ

らう又米人の自由思想を以てしても之が古  
代のエヂプトなりせば決して今日の繁榮を  
見る事能はざるは明かであるされば我等は  
時期の到らざるに伸びんとするは無益であ  
る。

第四條件 科學發達

興國の民は第一に純正科學の發達を所有  
しなければならぬ。物理學化學生理學數學  
動植物學は根本的に必要である。

次に應用科學の發達を要する。富を増加  
するに必要なる經濟學工學海洋學或ひは社  
會を改善するに必要なる社會學優生學等充  
分に發達せしむべきである。

第五條件 民族の偉大なる思想抱負

1 此思想抱負は文學として表はれる偉大なる  
民族は偉大なる文學を有すると同時に偉  
大なる文學は民族をして偉大ならしめる。  
エマソン曰く「人は遂に思想の如くなる」  
と。昨今唱へらる、産兒制限の如きは最も  
卑しき思想であるか、思想を有する民族  
に勃興のある筈なし子供はどしどし生め而  
して養育費高まらばキツチンの贅澤費を制  
限すべし衣服費を節約すべし金の指輪價高  
き香水を制限すべし又一方科學經濟學の活  
用により須く生産を増加すべし地球上未だ  
利用しをらざる富源甚大である全世界の面  
積五千七百万方哩、全人口十七億人、平方  
哩の平均人口僅かに三十人之をベルギーの  
一平方哩の人口七百餘人に比すれば二十四  
分の一に過ぎず即ち知る世界は少くとも今

の人口の廿四倍即ち約四百億は入る、に足  
る何を苦んでかさもしき産兒制限の如き民  
族滅亡の惡魔に魅せらる？殊に在米同胞の  
妻君諸君は今や生産力最旺盛の期にあり須  
く多く食ひ多く産むべきである。

第六條件 偉大なる人物

如何によき地を占め良き時に遭遇し文化  
の設備整ひ偉大なる思想を備ふる民族なり  
とも之を指導し之を善用し之を警醒するの  
偉大人物なくんば民族の大發達はなし「世界  
の歴史は英雄の傳記なり」とのカーライル  
の言は眞である。若し英國よりクロムエル  
を取去りしならば英國の歴史は全然變化し  
るのである。

第七條件 偉大なる思想抱負

其人の人生觀を決定し從て其思想を左右す  
るのであります。低き宗教を信する人は低き  
思想を有し高き宗教を奉ずる人は遂に高き  
思想を持つに到り高き思想は偉大なる活動  
を生み遂には偉大なる民族の勃興を來すの  
であります。之米國建國の祖なるピウリタ  
ンが少數なるにも拘らず驚くべき進歩をな  
し短時間に今日の繁榮を致すの元を据へた  
のである。

第八條件 偉大なる思想抱負

如何によき地を占め良き時に遭遇し文化  
の設備整ひ偉大なる思想を備ふる民族なり  
とも之を指導し之を善用し之を警醒するの  
偉大人物なくんば民族の大發達はなし「世界  
の歴史は英雄の傳記なり」とのカーライル  
の言は眞である。若し英國よりクロムエル  
を取去りしならば英國の歴史は全然變化し  
るのである。

研究

油桐又はドクエ (毒荏の義) (臺  
灣に於けるもの)

總 叙 今井 武雄

油桐は東亞細亞の原産にして大戟科落葉喬  
木として温帯及亞熱帯の特質を有し支那産  
植物として世上に名あり

本島に於いては最も有望なる油科植物中の  
一にして中南部の山脚地方に多し殊に海拔  
一千尺より二千尺の處に最も多く播布す  
即ち臺中州龍高郡下龜子頭及び埔里地方同  
竹山郡下大水堀竹山地方東勢郡下東勢地  
方なり就中竹山郡下に於いては製油の目的  
を以て栽培するもの多く竹山庄に年々集散  
する生産額約一萬斤内外と云ふ

然して油桐の最も大々的に造林するは當所  
にして其の植栽面積既に七百五十甲歩(一  
甲歩は二千九百七十四坪)を凌駕せり

一、氣象及土地の關係

油桐樹は温帯より亞熱帯熱帯を通じて生育  
するものなるを以て本島にては殆んど何れ  
の部分にも生育すべし然れども油桐樹は元  
來陰樹性の木なれば乾燥質の向陽地には發  
育不良なり殊に灰色硬粘土地にして氣候の  
熱燥に過ぐる所は人工的改良を加へざる限  
り其の發育に適せず本島により見る開墾跡  
地芽蘖の個處の如き亦然り、即ち當所に於  
いて該地に一部分播種造林せしに相當の發

英國の今日はなかつたであらう佛國よりナ  
ボレオンを獨逸よりモルトケ、ビスマルク  
ウイエルム一世をロシアよりピーター大  
帝を取り去らば今日の佛獨露はないアメリ  
カよりワシントン、リンカーン、ハーミル  
トン、デエフアソンをどれば今の米國何  
處にありや支那も奏の始皇あつて今日猶あ  
り日本より神武天皇補正成徳川家康西郷南  
洲明治天皇を取らば去れば決して今日の日本  
はない。實に人に欲しきは偉大なる思想國  
に欲しきは偉大なる人物である。

(三) 結 論

倍て在米同胞の現状を前述の條項に照し  
見れば果して如何

1 地理的には申分なし温帯天産豊か文明  
は御手のものである

2 人種は亦過去二千五百年の歴史が日本  
人の優秀を證してあまりある殊に最近五十  
年間に一躍して世界の一等國に入りしは自  
他共に驚歎措く能はざる處である

3 時期の問題に於ては未だしである我等  
の米國に渡米せるは僅かに二十年なるを以  
て未だ充分に基礎固らず未だ準備の時期で  
ある靜かに急がす撓まず着々準備すべき時  
期である。

4 科學の發達は申分なし米國の純正科學  
並に應用科學は非常な進歩である而して在  
米同胞の子前は米國の學校に學び之等を修  
得するを以て隆興に必要な充分なる知識  
を有する。

芽を見たるも其の生長量に至りては實に微  
々たるものなりき最初の一年は或るものは  
一尺に達したるものあれども年々萎縮し三四  
年後に至れば殆んど成長せる模樣なく出で  
し新芽は黒色を呈し萎縮して漸次枯死する  
に至る

人工的改良としてこの樹木の周囲約三四尺  
をうち起し茅葺の根まで取り除きたるに一  
時は見込めるが如く見えたるも毎年少なく  
も二三回の手入れを要し費用も亦少なからず  
要したるを以て他樹種(松或は桐思樹)に變  
更せり成績如何は見ざる不能ざるも實際的の  
問題として論ずるの價値なし

然らば如何なるケ處に適するか即ち厚層の  
砂壤地及砂質粘土にして桑樹白桐梧桐棕櫚  
及び柑橘等のよく生育する所なれば何れに  
ても適す本島に於いては氣候幾分清涼にし  
て雨量多き沃壤地を可とす且風中りの少な  
きケ所なるを要す

如何なる樹木によらず風害の如何を考ふる  
は造林上極めて必要なることなれども殊に  
油桐に於いて然りとす即ち其材質脆弱にし  
て葉大軟薄なるを以つて風害を受け易く葉  
枝條は勿論幹の折る、こと亦珍らしからず  
枝幹の損傷は花粉の飛散となり落花となり  
て直接結實量の減少を來たす又結實後(八  
月中旬以後九月中旬頃)來襲する暴風雨に  
至りては偶々枝間に累々たる大果をも其の  
憾動のために墜落して熟果を得る能はざら  
しむ從つて含油量の減少は免れざることな

5 次に偉大なる思想抱負を在米同胞は有  
するや！然りと私は答へる大和民族の使命  
は東洋文明と西洋文明とを融和して新に世  
界大文明を産み出す大責任にある。吾々は  
世界的大宗教を生まねばならぬ世界同胞主  
義に基く仁政を世界に敷くの政治的責務を  
有する我々はかゝる大責任を上帝より委ね  
られて居る撓まず而も深重に此委任を全ふ  
しなければならぬ

6 最後に大人物である遺憾ながら唯今の  
處在米同胞には大人物を見ない若し諸君  
(聽衆)の中にあつたらば許せば然第三項時  
期の條下にて述べし如く日本人の米國移住  
は日猶淺く大人物の輩出するは今後數十年  
後に屬する。

されば諸君我等の目下最大問題は如何に  
して今の子供を偉大なる人物に養成せんか  
にある、我等は最良の注意と力を此一点  
に注がねばならぬ。偉大なる思想と偉大な  
る人物、之が我等の最も必要なる處、上帝  
に此賜物を我同胞の子供の上に與へられん  
事を祈る「偉大なる思想と偉大なる人物は  
偉大なる民族の兩親なり」と私は最後に高  
く叫ぶ。

(是は本年五月六日シアトル市日本館に  
於てワシントン大學日本人學生會の催しに  
かゝる演説會に於て我西野入君が述べし演  
説の草稿である)

x x x x x

二、造林法

油桐の造林法を分ちて二種となす即ち一を  
植栽法とし他の一を直播法となす而して従  
來本島人間に於いて行ひ來りしは直播法に  
して當所の如き亦大部分この方法を爲し來  
れり

イ 植栽法

苗木を養生して造林する方法にして山出し  
苗木は大抵一年生のもを用ゆれども翌二  
年生のもを用ゆること少なからず  
植栽距離は一定されおらざるも當所に於て  
行ひしは最初十二尺正方植と爲し年々枝幹  
の生長するに従ひ狭悪を感じて以て大正  
八年より十五尺正方植(一甲歩四百八十本)  
と變更せり、植栽方法は普通一般行はる、  
方法と變りなく大なるものは其の幹の部分  
まで(至長の三分の一)を切断す時期は大抵  
十月頃より翌年の三月までの間に行ふを可  
とす而して之が苗木の養成地は向陽の乾燥  
地より半陰地若くは鬱蒼せざる樹林間に設  
くるを最も可とす

當所に於いても補植用に供するものを相思  
樹造林地内(植栽後六七年のものにして根  
廻平均六七寸位)各所に設けてなしたるに  
苗木のみならず相思樹の生長量も亦良好な  
り運搬費設置費の僅少ななる事は論を待たず  
〔附〕植栽に用ゆる苗木は苗圃播種による  
もの、他挿木(苗圃に)によりて養生す本年  
當所に於て實行せるも其の成績如何は未だ

短日月なるを以て斷ずる能はざるも活着力  
は良好なりき臺灣林業試験場の報告によれ  
ば活着力八九割然らざるも五六割以上は苗  
木として得らる、と猶時季は南部地方に於  
ては五月頃を可とする由なれども當所に於  
て行ひしは三月中旬より下旬なり挿穂は造  
林後五六年生のものより得嫩枝を短切し  
長さ七八寸より一尺(他の挿條と同)の方  
法にてなせり

ロ 直播法

本法は直接造林地に播種する方法にして一  
穴(穴は徑一尺位をよ耕して此處に播種  
す)三粒より五粒を播き距離は植栽法と同  
一とす播種一ヶ月位にして發芽し良好なる  
ものは一ヶ年後四五尺に達す三四年後に至  
れば植栽せるものと殆んど同一の生長をな  
し一見見分くる能はざるに至る  
而して發芽は大抵一穴より二本位づ、ある  
を以て翌年よりは之れを補植用として用ふ  
るの利あり而も最短距離より苗木を得るも  
のなれば運搬によりて生ずる不利なる諸点  
は殆んど生ずることなし  
根廻一寸以上のものは活着力悪しく總ての  
取扱上不便多きを以て行はざるを可とす

三、收穫及年限

内地に於いて畑地の如き良適地にして肥料  
充分與ふるときは四年目頃より開花結實す  
ると云ふ本島産のものは大抵三年目より開  
花結實す而れども採集して製油する程の量  
を得る能はず收穫の多くなるは植栽後六七

年にして殊に十年以後に二十年までは最も  
多量にして平均一本より一斗以上の收穫を  
得ると云ふ  
當所にては植栽後七八年のものなるを以て  
年齢に對する收穫量の如何は記す能はざる  
も昨年(一部分なれども)比較的良好的土  
地より一甲歩約三石を得たり

次に採集年限は各地方によりて一定せず竹  
山地方の土人の話によれば極めて短日月に  
して十年より十五年を一期とし更新すると  
云ふ即ちこの頃に至れば寄生植物必定的に  
繁茂したために次第に勞力を奪はれ枯死する  
と云ふ

この寄生植物云々に對して總督技師田代安  
定氏の報告によれば該地方の楓の「ヤドリ  
ギ」に等しきものに偶然製はれ其の種子が  
年々林内に飛散し著しく其の幹頭枝間に發  
生繁殖を逞みし樹木を害するものにして該  
地方の土人が之れを天然災害視し敢て驅除  
するなきによるものにして他地方の油桐に  
は殆んどか、るものを見ず三十一年生に至  
るも尙旺盛にして年々多量の實を採集する  
と云ふ

四、製 油

製油に關しては其の方法及之れに要する機  
械等の如きものも余り淺學なりし爲か未だ  
新式のものあるを聞かずもし諸兄の中に於  
て御存じの方は何卒御報を乞ふ  
當所の如き亦本年より漸く行ひ居りしこと  
ろにて別に大々的のものにもあらず其成績

收支算の計算など詳細なることは全く記し  
難きを以て此處には只極く大略の搾油方法  
のみにとゞめ詳細なることは他日に譲るべ  
し先づ年々十月中旬頃より採集せるものを  
剥皮し約七日間程太陽に晒し石礮にて搗碎  
し篋を用ひて細大を分別し(大なるものは  
更に碎く)後三升若くは五升位の蒸籠に入  
れて蒸し蒸したるものは直徑八寸より一尺  
二三寸位の鐵輪(巾凡そ七八分にして少な  
る孔を所々に穿ちたるもの)中央に鑿を放  
射狀に敷き其の上に原料を盛り固め上下の  
鐵輪に板を取り(中央の二枚と其のま、こ  
す)之れを十六枚重ねて校杆によりて壓搾  
して搾油す

五、用 途

- 一、材として  
下駄、薪材、器具
- 二油として  
漆器の混和料 傘箱匣類の防腐料  
三幹皮は

草分多きため(駒場農科大學の試験に  
よれば百分中二二〇、〇〇〇)揉皮原料  
〔附〕臺灣種と漢口種  
元は同一種ならんも品質の改良されしも  
のか支那産油桐の中に臺灣種、漢口種  
二種を有し只油桐として別に區別なく造林  
され居れども其の相違の諸点をを婆心より  
終尾に附す

一、臺灣種は一般に樹皮は淡黒色を呈し  
葉も漢口種に比し大にして亦心臟形を

有し三切す。是に比し漢口種は樹皮白  
灰色をなし葉柄や、赤味を帯ぶ  
一、臺灣種は新芽を出し後開花すれども  
漢口種は開花後にあらざれば新芽を生  
せず猶開花期も臺灣種の方十日位は早  
し  
一、臺灣種は植樹後上長成長盛にして枝  
條の生ずること速し約二年位枝條を有  
せざることあり  
一、臺灣種は漢口種に比し開花結實一二  
年遅くる



小川事業區に於ける  
伐木運材事業概況

(續き)  
長谷川 毅

三、運材事業

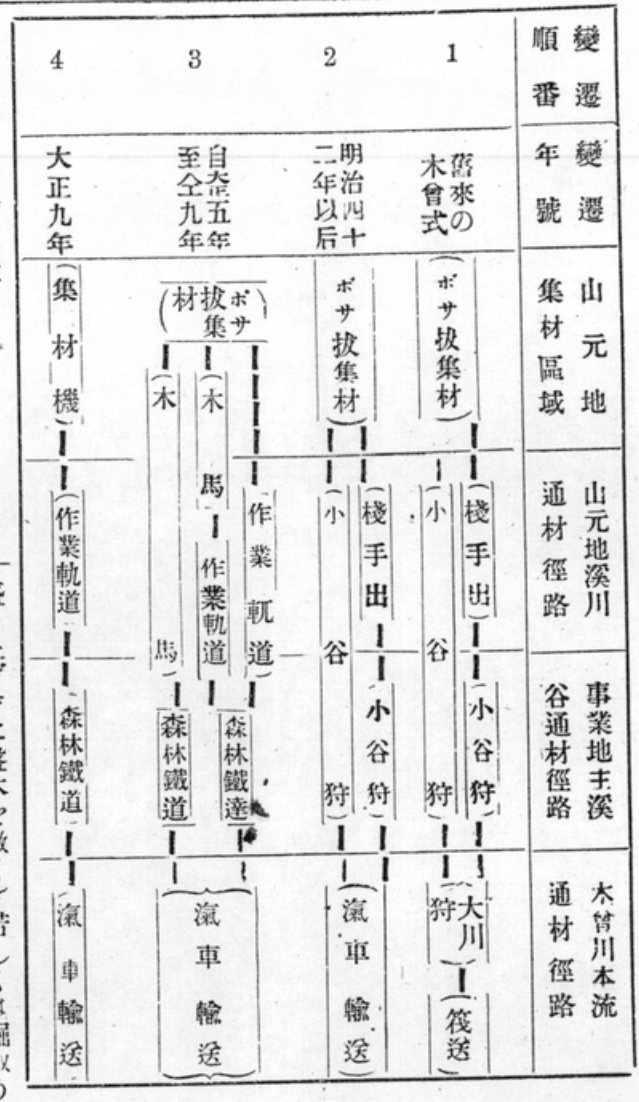
第一、運材徑路の變遷

舊來の木曾式運材法は、山元に於ける集  
材としては、かのボサ抜き、木寄のト修羅  
ボサ賑、白、留め、棧手等の設備をして山  
落運材を行ひ、水量多き溪川及び其事業區  
の干溪谷に迄搬材した時は、是等の溪川及  
び主溪谷の流水を適當の距離を以て、木材  
其他の材料を用ひて堰ぎ、此の作られた幾  
個かの堰と堰との間に於て通材する處の所  
謂堰出し(是を小谷狩と稱す)運材法に依  
つて本曾川本流迄搬出し、是より本流を次

第に下流へと水流の力を利用して狩下し  
(是を大川狩と稱す)岐阜縣可兒郡錦津村錦  
織網場に於て一時木材を留置し此處にて筏  
に編成し、是より此筏の乗下しに依り犬  
山、笠松等木曾川筋を経て、熱田或は桑名  
の貯木場に到着せしめ以て全運材事業を終  
つたのである。

然るに當區に於ては明治四十二年の中央  
線鐵道開通後は、從來の大川狩及び筏送を  
流車輸送と一變せしめ、次で大正五年六月  
森林鐵道の完成並に後稍々運れて木馬、作  
業軌道等の運材設備が作設される様になつ  
たので、小谷狩棧手出等の舊式運材が廢止  
されて漸次新式運材法に改良されたのであ  
つたが、更に一昨年即ち大正九年度に於て  
は既に諸賢の御承知の事と思はれますが、  
本邦内地としては最初の集材機(Sticker)  
作業が實施されたので茲に又舊來のボサ抜  
き、修羅出等の人工的運材が機械的運材に  
改革されて現に昨年も、事業地の集材事業  
を此集材機作業に依り全部搬出し、又今年  
も其計畫に豫定されて居るのである。

斯くの如く當區の運材法の徑路は往時の  
人力或は自然力を利用して行はれたる處の  
原始的運材法を漸次機械的に變遷せしめた  
のである(木馬、作業軌道、森林鐵道、集  
材機に就ては後説に述べてある)今茲に此  
徑路の變遷を分り易く表示すれば左の様で  
ある。



第二、木馬運材

木馬運材は高知縣地方が本場で木曾地方に於ても當事業所の外に湯舟澤御料林邊に於て實施されて居るのであるが、本運材法が幾分人工的運材法とは云へ舊來の棧手出等に比すれば一歩進んだ又特殊な運材法として認められて居る點に於て、茲に説述するも無益でないと思ひ其概要を記述する事にしたのである。

本運材法に就ては既に御承知の諸賢も多からうと思ひますが、云は、土橋の一種で搬路は簡單な棧橋若しくは半棧橋を作つて其上に土砂を盛り上げ、更に其上に盤木(木馬橋)の滑る爲に敷かる木片を一尺乃至一尺五寸位置に列置し(或は直接棧橋に土を

盛り上げずに盤木を敷く)若しくは掘取りたる地面の上に如上の盤木を配置して作設を完了する、事になるのである。木材を積載して搬路を曳下ぐる棧即ち木馬は、大體土橋の構造に似て居ると思は、大差ないのである。而して搬路の勾配は最急二〇%平均一〇%最緩五%(尤も短距離に於ては逆勾配八%以内の搬路を設けて揚木を爲す事がある)其路床の幅員は五尺、最小半徑三間(二間材即ち十五尺五寸の長さの木材を通材する場合の内カーブ)で、一臺の積載量、延臺數、一日の搬出量を記せば左の通りである。但し平均距離十五町、就業人員は積込人夫十五人卸木直人夫二人の場合とする。

- (一) 採伐材は皆伐材に比して重量多きと森林内の濕潤地を通過する爲に其功程は尠いのである。
- (二) 前項の關係なしに積載量に多少の異なるのは主として、樹種、曳下人夫の優劣、木材の乾燥程度に起因する。
- (三) 一人の搬出量に就業人員十五人を乗じたる値が一日の搬出量となる場合は平均のみで、最大及最小の場合には合致しない譯は、一人搬出量三六石は十五人の中僅かですべて揃つて最大の搬出量を有せないので、又最小の場合も是と同様である。

- (一) 修羅出、棧手出等にして木材を損傷すること無くして搬出し得ること
- (二) 故に神宮御造營材等の如き貴重材若しくは長間材の搬出に適するのである
- (三) ボサ拔集材の地域に木馬道を作設したる場合は集材の山脚を短くして集材を容易ならしむること
- (四) 作業軌道運材等に比し勾配の變化多きを以て搬路の距離を短くし得る點に於て利益なること
- (五) 第二乃至第三までの利益點は木曾式運材法を熟知せらる、諸賢でなければ御解り難い

種目	程度		均		小	
	皆伐材	擇伐材	皆伐材	擇伐材	皆伐材	擇伐材
一 臺積載量	11,000	9,000	7,000	5,500	5,000	3,000
一 臺延臺數	三回	三回	二回五	二回五	一回	一回
一 人搬出量	3,600	2,700	1,750	1,375	500	300
一 日搬出量	400,000	300,000	220,000	150,000	100,000	100,000

かも知れぬが、兎も角も右四項は木馬運材の特長であつて、殊に地勢の險惡急峻な山地に於て貴重材若しくは長間材を搬出するが如き場合に於て最も有効である。只其缺點と見る處は

- (一) 降雨降霜日若しくは降雨後濕潤中は屢休業するの已むを得ざること
- (二) 作業軌道運材等に比し搬出量の割合に少きこと
- (三) 熟練せる専門的人夫に非ざれば實行し難きこと
- (四) 負傷人夫の多くある事

等である。斯くの如く本運材法には一長一短があつて是を適用して利害何れにあり哉は實地問題で、地形上の關係、搬出材積の多少、樹種の如何、距離の遠近等に依り定まるもので、一概に其可否を斷する事は出来ぬのである。現在としては、餘りに大仕掛な運材法としては用ひられぬのであるが、小規模な運材として適用する場合に於て屢々有効であり又將來とも多少如上の特殊な場合に於て用ひらる、こと、思はるのである。

第三、作業軌道運材

本運材法は、當事業所に於ては大正五年度初めて實施したのであるが、其成績が非常に良好で當事業所には最も相應した運材法として認められたので爾來毎年繼續されて居るのである。尤も本運材法は高知縣秋田縣地方より輸入したのであるが、今日當事業所に見るが如き運材法となるまでには其間種々の改良を加へられたのである。詳しくは作業トローラーの構造、軌道の築設法、搬出量の理論的計算等に就ては、茲に述べ

るは多數紙面を要し他の伐木狀況を説述するに差支るのであるから、極く簡単に其要點のみ記する事としたのである。

(一) 搬路  
搬路の構造は、大體木馬道に似て居るのであるが、木馬道よりは餘程堅固に作設しなければ運材に差支るのであるから、搬路の作設前に於て充分の實地の踏査をし、工事の難易を考究して測點及び勾配を定めなければならぬ。今搬路に關係した主なる事項を記せば次の様である。

- (イ) 幅員 六尺
  - (ロ) 最小半徑 四間(但し内カーブ)
  - (ハ) 枕木數 一間に付三本乃至四本
  - (ニ) 勾配 最急五%平均三%最緩一五%
- 備考 尤も短距離若しくは折返曲線部又は揚木の場合に於ける逆勾配には最急七%位まで用ふのである。
- (ホ) 軌條の重量 十二封度のものを用ふ
  - (ヘ) 軌條の幅員 二呎六吋
  - (ト) 軌條の附屬品
    - スパイク 一間に付十二本乃至十六本
    - (軌條を枕木に固着する爲の釘)
    - モール 一軌條(約三間)に付八本
    - (軌條と軌條との連結に用ふる)
    - フィッシュプレート 一軌條に付四枚
  - (全前用)
    - (チ) 轉轍器 折返し及び復線に用ふ
    - (リ) 軌條布設用器具
      - 曲軌器 大小各一個(軌條の曲りを直すに用ふ)
      - ビーター 三個(軌條面の高底を直すに用ふ)
      - ゲージ 一個(軌條の幅員を一定ならしむる爲に用ふ)
      - ハンマー 二個(スパイクを打込むに用ふ)
      - クロバール 二個(スパイクの引抜に用ふ)

(ヌ)現在の一間當經費  
凡そ八圓四十錢

内譯 三圓 人夫賃  
三圓四十錢 軌條價格  
二圓 材料費

尤も是は個所に依り多少の差異がある  
二、運搬車  
作業トロッパー、即ち運搬車の要項を擧ぐれば

(イ)用品及び材料

- 車軸 一輛
- ピワリング 四個
- 鐵ボルト 四本(車體の組立用)
- 木材 〇、七石
- 麻綱 三間
- 鯨 三十本

(ロ)一臺製作經費  
約七十五圓

(大工賃、車軸、金具類、木材其他を含む)

文 苑

日曜日

今野啓藏



日曜日の午前九時半頃、今迄ギ  
ターを弾いて居た彼は、それ  
を片付けに押入れに立つて行つ  
た。其の時鳥渡彼の頭に浮んだ  
のは學校に送るべきバルブの標本であつた  
彼は此の前に色々のバルブを聚めて標本に  
と藏つて置いた憶があるもので、押入れの

中を探して見たが、遂見當らなかつた。し  
つちの箱を開けて見る、すると、去年の或  
記録が彼の目に映じた。そして彼の胸はム  
ラ／＼と母校懐しの情に燃えた。一昨日は  
同級生だつたH君から昨日は又I君から便  
りが来たのだか、厭な試験があつたのど手  
元に端書も切手もなかつたので、返事を出  
さなかつた。この様な友の便りに接した時  
甚麼に嬉しい事だらう——彼は又斯麼こ  
とも考へて見た。

僕らも卒業してから滿一年経つて今年に  
新しい卒業生が出来たのだ。一年たつて見  
るとほんとうの卒業生になつた様な氣にな  
る。卒業しての一年の間は、同窓であつた  
友の顔もあり／＼と見え、通信はしなくとも  
心の中では時々心と心が相通じて居るの  
だが、名實共に通信の絶ゆるのはこれから  
だ。あの二人には返事を出さなかつたが二  
人を焼延ばしてオールドのクラスメート全  
体として偽のない手紙を書かうといふ氣に  
なつた。

僕はたまらなく山が戀しくなつたのだ。  
同じに住んであの黒川の橋を通つた同僚に  
木曾の春の山の美を下手に叙景するにも及  
ぶまい。とにかくあの美はたまらないよ。  
僕は今でも演習林の落葉松の新芽が春風に  
乙女の髪に緑の波……又は黒川の深淵  
に清冽な水を透して銀色の鱗を光らせる赤  
魚岩魚……或は興禪寺山から城山御料林に  
かけての若葉……青葉あ、今は決してあんな

な景色には接し得られない夜店の植木屋か  
ら小さな葉松の鉢を買つて来てはよろこ  
ぶ今日この頃の夕方まだ煙突の煙も絶へな  
い郊外を散歩しては、その歡びに熱狂する  
やうな僕になつたのだ。自然の美は僕の眼  
からだん／＼遠ざかつて行く。然し自然を  
愛する僕の心が減つて行くのか否かは今日  
の所分らぬ。

木曾で自然の中に教育せられたと云ふ事  
は僕にとつては大きな恩澤であつたと云ふ  
事を僕は一生通じて感謝するであらう。在  
校の友よ、大いにあの山谷を披渉せよ。そ  
して熱愛せられよ、駒ヶ岳の夕日を見ては  
大いに寮の窓を叩け、裏山演習林の上に朧  
に出づる春の月に對しては大いに歌へ、諸  
兄がいつも山野に親ある事は幸福だ。蕨の  
芽の延びる今頃大分頭の毛も延びた人もあ  
る事せう。男女の夫婦を相手に苗圃の監  
督なんて全く幸福だね。そしてその傍西田  
さんの懺悔の生活でも讀んで見給へ、全く  
愉快だ、僕も愉快な生活をして居る。工場  
生活兼學校生活だ。と云つて苦學でもなけ  
れば樂學でもない。だから愉快なんぞ僕の  
生活は「製紙の研究」だけ云つて置かう近  
頃は數學に苦しんで居る。今週の土曜には  
解折幾何のやりなほし試験をすとか云つ  
てこの間は一へも出来ないのだから、こ  
んどは仕方にかせぬばならぬ。

木曾時代の勉強は樂しかつた。無理の鐘  
詰ではないんだから。僕は三十迄はどうし

ても學生だと思つて居るんだが研究も寂し  
いもんだよ。つまり人生觀から見ての「不  
完全の徹底」に努力して居るやうにしか思  
へないんだ。徹底なんて書きはしたがそ  
れは到底僕らに覺束ない事だ「不完全の追  
窮」でもしましやうか?

紙の事は一年か、つて初學だけ覺えた何  
時か林業から見た製紙の方面を林友に書か  
して貰ひたいと思ひます。シベリヤの大森  
林の利用は我等日本人に依つてバルブが紙  
にして世界に供給する事だと思ひます。堤  
商會新宮商行とかで事實に手を出したとか  
聞きました。それとして富山縣の伐木あた  
りが製紙工場としての發展地だらうなどと  
云はれて居ります。我々も總べての方面に  
發展せねばならぬと思ひます。大いにやり  
ませう。

上野の美術學校に化學工業會の講演會が  
あると云ふので友達と出掛けの時上野のあ  
の山下でズボンに霜降にした山林の徽章を  
つけた學生に合つた。これや修學旅行だ  
と思つたので宿を尋ねやうとしたが、それ  
は數間離れてから思ひ出したのだつた。  
今度は數人のグループに會ふ、慥かに山林  
だ。今度は尋ねた。春性院 と云ふ寺、春  
性とは色氣のある陽氣な寺だなと思ふ。  
一年振で山林の徽章に遇つて嬉しかつた。  
そして矢張り自分達の樂しかつた過去の旅  
行を思ひ出した、日光の羊羹、中禪寺湖畔  
つた屋でのナカノリサン——三年の時

は——と云ふと繪の様に髣髴する奈良の  
鹿、二見ヶ浦山本屋の虐待、吉野王瀧の○  
○樓、京都知恩院の附近では知つて居る道  
をわざと通行の女に尋ねたりしたわるさ。  
舞鶴軍港内の流艇巡遊、嵐山のボート、君  
!全く思ひ出されるね、青春な無邪氣なあ  
んな旅行はもう永久にないでせう、旅行其  
のもの、見聞とが余程自分を豊にして居る  
やうにも思はれる。旅行は最もよい友を懐  
ふのイントロダクションだ。

自分の現在の生活が思つたよりも眞剣味  
の足りない事を自分は悲しむ。諸兄御自愛  
あれ、世は若葉なり。若人よ、健康の肉振  
はずやだ。 十一、五、二十一



臺灣より

T 生

手紙會く暇のない譯でもありませんが常  
々御無沙汰勝で申譯ありません。今回二月  
一日から阿里山施業案編成調査被命にて引  
續き入山して居ります、色々御通信したい  
事がありますけれど共今日は僕が目下出張中  
の模様を少しお話しませう

御承知のペン友 臺灣語I君に面會した  
時何とも言へぬ嬉しさとなつかしさを感  
じました。阿里山に着いた晩I君と大分飲  
みつくしました「××君臺北で大分發展した  
らしいぞ」I君からこんな事を云はれて鳥  
渡赤面しました。實際何もないのに此度事

を言はれると自分は慥に性的な偉力が具つ  
て居る様に自惚れます。

一晩中在校當時のライフを追窮して美し  
い抱擁に酔ひました。此んな手紙書く中に  
も寄宿同棲當地の生活がマザ／＼と浮んで  
来て感慨無量に襲はれます。

然しI君も寄宿時代とは大分變つた様に  
思ひます、私は學校當時のま、ちつとも變  
らないと云はれました。只繼續的に神經を  
苦しめるのが自分の個性になつた丈けで  
す、それだけしか變つて居りません。

約一週間阿里山の役所に滞在して土人や  
蕃人を澤山連れて約五里の山奥の小屋に移  
りました。そこには土人の柚や木挽の小屋  
が澤山あつて汚ない事此上もありません  
毎日の様に往復五里の急峻な連峯を測量  
して歸つて來ると本當にぐつたりして下  
ります。然し一日の労働を無事に済まして土  
人や生蕃や色々な人種と食卓を圍む時咽喉  
一寸を通る酒の味が甚麼に美味い事せう  
余り好きでもない酒を茶碗に二杯や三杯は  
見事に平げます。蕃人が酒を飲むと内地人  
の唱歌を唄ひます、君か代を歌へぬ蕃人は  
此の方面に居りません、氣の利いた奴は博  
多節など奇妙に歌ひ崩れます。

三月二日から千人洞といふ間口九十間奥  
行八間といふ大きな洞の中で一週間露營し  
ました。此處では生蕃の力を借りて山羊や  
鹿の生肉を澤山食べました、何でも云へぬ  
男性的な生活を思ひ浮べました、この方面

では針葉樹は大抵ヒノキにベニヒです、直徑三四尺高さ十七八間が平均になつて居ます、潤葉樹は余り立派なものはありません、三月中旬大きな溪の中にテントを張つて味噌や醬油を運びました、其所は非常に大きな断崖でしたから細引を木の根に引掛け五百尺の谷底へ下りました、丁度その時は活動寫眞の俳優にでもなつた様な氣持がしました。

三月二十日頃阿里山の俱樂部へ賀川氏が参りましたので雨に濡れてわざ／＼阿里山迄出かけました「死線を越えて」の著者とはまるで異つた様な平凡な話を聞いてがっかりしまひました。

四月初旬引揚の豫定でしたが五十日延期になりましたので引續き山中生活をして居ます、今阿里山から七里許りの所新高山に近い方面の水山溪と云ふ溪岸にテント生活をして居ます、毎日新高番人の焚く野火の烟が長く棚引いて居ます、本當の高山氣分を味ふのに充分です。此所では食物としてワラビやタケノコを採集して居ます、冒險極りなしです。

昨日達邦と云ふ蕃社へ番人を備ふ爲めに参りました、此所で警部補から大いに待遇されて蕃社を見物しました。今脚氣の爲め多少健康を害して居ますが大した事はありません、君が信州に居る中是非もう一度面會したいと思ひます、珍らしい話の材料を貯へて置いて下さい。



和歌旅にて

草枕生

(以上は私への私信ですが面白いと思つたから出したのです右お断り) T生  
武蔵野をひたに走れる汽車ぬちに眺めて朝の眞赤なる  
江の島の棧橋に立てば富士の小波のうねりの果てにほの見ゆ  
小舟にて島を廻れば断崖にひともと立てりびやくしんの木は  
絶わ間なく寄せて碎くる大海の波のうねりの眺め倦かぬも  
岩に立ち昔偲べば打ち寄する波に濡れけり稲村ヶ崎  
鎌倉の大佛の顔シミ／＼と眺めて見たり葉櫻のかけ  
腰越の別荘地には人氣なく波音高き阜月の眞晝  
晝近き七里ヶ濱を歩みくれば錢呉れど漁師の子は云ひぬ  
たまさかに海に来る子は潮の香も濱の砂地もなつかしかりき  
大塔の宮の在りける洞窟をのぞけば寂し中暗くして  
鶴ヶ岡八幡宮の大銀杏阜月の風は葉にかがやけり  
金龍館アベラに出づる女優らのそのまなざしの美しきかな



六月集

Y 生

ダンシングする女優らの手のうねり足のうねりの蛇にも似たり  
赤き灯よ青き光よ葉櫻よ上野の山の夜のよめさ  
想像と現實とそのハンデキャップの大きいさよ日光に来て  
中禪寺行く山路の桃色の躑躅の花は今盛りなり  
物凄き華嚴の瀧のつばに來りて我はしごごに濡れつ  
たそがれに辿りつきけり幸の湖めぐる山々黒く黙せり  
西宮の雲は次第に色褪せて湖の面は暗くたそがれにけり  
うら若き女の群と後になり先になりつ、越ね峠路  
明け來れば湖の面白く輝きて肉寒みかも幸湖の宿は  
明け來れば硝子戸越しにさざ波の見わたる寒けき阜月の幸湖  
男体の山なだらかに波静か渡る湖の面の朝のすがしも  
汽車過ぐる阜月眞晝の武蔵野の大麥畑風渡る見ゆ  
○六月の青き衣をまとひたる新しき人いやくにありや  
○威情の六月の雲はひければ深くも草ばま

ゆをひそめし  
○一日は勝利の日なり一日は事悉く破る、の日  
○親しき水盤に盛れど初夏の悲しや水はくされ果てたり

報 告

○學校彙報

○六月三日 放課後顧問及部長集り大正十一年度校友會豫算會を開く其結果左の如し

大正十一年度校友會豫算

収入の部	支出の部
一金千二百〇九圓八拾錢	一金千貳百〇九圓八拾錢也
内譯 九百六十圓	内譯 九拾四圓八拾錢
七拾六圓八拾錢	參百六拾圓
百圓	六拾圓
七拾參圓	百參拾圓
前年度繰越	百四拾圓
雜誌代	八拾圓
庶務部	百參拾五圓
職員會費	五拾圓
前年度繰越	別途 百圓
運動器具	
運動會費	

六拾圓

聯合マツチ費

- 六月五日 菊地先生縣下安筑實業學校博物教授設備協議會の爲南安曇郡豊科農學校へ出張六日まで
- 六月九日 前本校教諭島内先生秋田縣立農林學校修學旅行の途次態々の當地下車母校を訪はれ即日名古屋へ御出發
- 六月十日 午後第一回辯論會
- 六月十二日 東京帝大農學部教授諸戸林學博士、浦井本縣林務課長訪問視察さる
- 六月十五日 本校友々友會は木曾讀書會福島町青年會と合併し京都鹿ヶ谷一燈園西田天香師を聘し福島小學校講堂に於て講演を聴く同人清水政一氏も講演をなす
- 六月十七日 野球クラスマツチを催す
- 六月十八日 松本高等學校演武場開きの中等學校試合に本校より柔道部劍道部の選手出場す
- 林産製造場を毀して之を他に新設する事とし其建物を寄宿舎の前庭に移し通學生控所柔道々場となす其他果樹園校庭など面目は一新されんとす

職員異動

- 小橋平先生 三月卅一日任命
- 大竹龜次郎先生 全日就任舎監任命
- 塚越越夫先生 四月十三日千葉縣安房郡農業水産學校に轉任
- 伊藤東一先生 同日任命
- 杉山義次先生 四月廿二日任命

會員動靜

- 武術教師里見久雄先生 三月三十一日退職荒木先生後任任命
- 藤尾眞先生 四月十七日依願解職宮崎縣へ赴任せらる
- 小岩井茂樹君(十四) 山形公有林野官行造林署勤務被命
- 遠藤治一郎君(二) 農商務省へ轉任山林局地方課勤務被命
- 宮澤清輔君(七) 東京市京橋區出雲町十番地日露實業株式會社へ轉居
- 熊谷清逸君(十三) 樺太廳技手拜命林務課就職
- 山崎兵平君(十三) 青森大林區署在勤被命
- 吉川光夫君(十四) 帝室林野管理局技手に任官王瀧出張所在勤務被命
- 可兒敏郎君(十七) 甲種勤務演習の爲五月一日より向ふ百二十日間名古屋工兵第三大隊第三中隊に召集さる
- 星加晴雄君(十六) 目下朝鮮新義州王子製紙會社朝鮮分社内居任
- 岡田恒治君(一) 勤務先山形市に於て發病藥石無効去る五月十一日死去さる謹而哀悼の意を表す
- 安井元吉君(舊姓岩出)(十四) 永々病氣の處藥石其効なく五月十四日養家に於て永眠す哀悼に不堪
- 因みに右安井君に關し兵庫縣生野鐵山の

友 林 蘇 岐

藤卷壽一君より御報知あり曰く「前略同君には大正六年四月十四日小生當鐵山に就職の時來りて共に林業方面を擔當し能く精勤せられたる爲上下の信用も厚く又僚友の受けもよく後請はれて當町安井氏に養子となり程なく病魔の爲昨年九月來就床一時快方に向ひたるも又革りて再び起たず齡三十を一期として此世を去られたるは誠に同情の至りにて深く哀悼する次第に有之候云々」

○宮澤末雄君(十六) 千葉縣君津郡久留里小林區署へ轉任

◎記念會醴金領收報告

- 金拾貳圓 丸山 久雄君
- 金拾圓 長谷川 毅君
- 金五圓 鶴殿 正雄君
- 金五圓 大森 悅君
- 金五圓 石坂 季治君
- 金五圓 有賀 正一君
- 金拾圓 小瀧昇太郎君
- 金拾圓 松澤莊太郎君
- 金貳拾圓 温井 誠一君
- 金五圓 荻原 惠治君
- 金五圓 中垣 英一君
- 金八圓 小縣 球次君
- 金拾圓 中島 昌利君
- 金拾圓 舊教諭新家園(面君)
- 金拾圓 北川 信美君

◎林友代領收報告

- 金貳圓 楠澤 英一君
- 金貳圓 樋田 良市君
- 金壹圓五拾錢 大澤 次郎君
- 金壹圓 宮澤 要君
- 金壹圓五拾錢 宅見 剛二君
- 金壹圓五拾錢 石原 元君
- 金貳圓 高田金次郎君
- 金壹圓五拾錢 門出 鷲君
- 金壹圓五拾錢 前野 義宗君
- 金壹圓五拾錢 市岡 巖君
- 金壹圓五拾錢 鈴木 壽雄君
- 金五拾錢 須田 順吉君
- 金五拾錢 安藤 覺君
- 金壹圓五拾錢 桃井 武夫君
- 金壹圓五拾錢 堀内 英一君

金拾圓 千村彌之助君

金拾圓 松尾 廣次君

金拾五圓 杉本 貢君

金拾圓 下平 三雄君

金拾圓 青木 忠太君

合計金百八拾五圓也

累計金壹千八百八拾四圓也

訂正本誌 三月號記念醴金領收報告中累計貳千九拾九圓は壹千六百九拾九圓の誤りに就き之を訂正す

◎塚越先生謝恩金領收報告

- 計金四拾五圓五拾錢也
  - 金九圓 長谷川 毅君
  - 金貳圓 各務 傳六君
  - 金貳圓 松原 松男君
  - 金貳圓 熊谷 清逸君
  - 金貳圓 田近 三郎君
  - 金貳圓 澤頭 謹一君
  - 金貳圓 古畑今朝茂君
  - 金壹圓五拾錢 小林孝三郎君
  - 金壹圓五拾錢 福井 浩君
  - 金五拾錢 伊藤 三男君
  - 金五拾錢 近藤 清美君
  - 金五拾錢 伊藤 良雄君
  - 金壹圓五拾錢 原 主水君
- 計五圓也 松原 松男君 小林 盛大君
- 因記 本誌前號に塚越先生謝恩金募集主旨記載し有之候間御承知なき諸君は御覽被下度候
- ◎故福田友次郎君吊慰金領收報告(三)
- 一金貳圓也 原田 義治君
- 累計金拾圓 但申込未納金壹圓共

大正十一年六月廿三日印刷  
大正十一年六月廿五日發行

長野縣西筑摩郡福島町(五番地) 編輯兼發行人 安井 正 夫  
長野縣松本市小柳町(五番地) 印刷 人 淺川 吉藏

長野縣松本市小柳町(五番地) 印刷 所 淺川 活版 所  
長野縣西筑摩郡福島町(五番地) 發行 所 蘆澤 書店

【定價金參錢】